

全国で実施された最新の試験問題に加え、
900問の精選問題を収録

准看護師 試験問題集

2016
年版

付一 模範解答 [別冊]

医学書院看護出版部 一編

2016年の准看護師資格試験の受験者を対象とした問題集です。2015年2月に全国都道府県で実施された2014年度准看護師資格試験の全問題900問を地域別に収録しています。また、2011～2013年度試験問題から精選した900問を科目別に整理し、受験対策や重要事項とあわせて自己学習に役立てられるようにまとめました。各科目の専門家による模範解答(別冊付録)付きです。



目次

- 1 受験の心得と試験基準
- 2 都道府県別准看護師試験係一覧
- 3 2014年度地域別出題分類一覧

〈科目別〉

出題傾向・受験対策

試験によく出る重要事項

精選過去問題

チェックアップ

人体の仕組みと働き・食生活と栄養・
薬物と看護・疾病の成り立ち・
感染と予防・看護と倫理・患者の心理・
保健医療福祉の仕組み・看護と法律・
基礎看護・成人看護・老年看護・
母子看護・精神看護

〈地域別〉2014年度試験問題

模範解答(別冊)

●B5 頁576 2015年 定価：本体3,400円+税
[ISBN978-4-260-02123-4]



医学書院

身体計測

19
身体計測

- ▶身体計測について、誤っているものはどれか。
(1) 腹囲は、仰臥位では膝を曲げた状態で測定する。
(2) 胸囲は、呼吸の終了時に測定する。
(3) 握力は、腕を体側に垂直にした状態で測定する。
(4) 肺活量は、深呼吸を2〜3回させた後で測定する。

20
身体測定

- ▶身体測定について、正しいものはどれか。
(1) 成人の身長は、眼高下縁が外耳孔上縁よりも高くするように頭を上げて測定する。
(2) 胸囲測定で巻尺を当てる背面の位置は、肩甲骨下角の直下である。
(3) 腹囲は吸気の終わりに測定する。
(4) 成人の体重測定では、kg単位で記録し、小数点以下は不要である。

21
身長測定

- ▶身長測定で適切なものはどれか。
(1) 尺柱には腕、膝部、臀部、後頭部の4点をつける。
(2) 外耳孔下縁と眼高上縁は水平になるようにする。
(3) 足先は閉じた状態にする。
(4) 目盛りは横風の斜め下から読む。

22

- ▶成人の体重測定で適切なものはどれか。

900問の精選過去問題を
テーマ別に掲載。
さまざまな問われ方に
対応できます

地域6
福岡・佐賀・長崎・熊本
大分・宮崎・鹿児島・沖縄
地域別2014年度試験問題

前年度の地域別問題
(各150問)を解くことで
ペース配分の確認など
本番の練習ができます

試験によく出る
重要事項

母子看護【母体看護】

●母性に関係する法律

- ①母子保健法：妊娠の届出、母子健康手帳の交付、妊産婦の健康診査、低出生体重児の届出。
②母体保護法：人工妊娠中絶(妊娠22週未満まで)、受精調節の実地指導、③労働基準法：産前・産後の休暇、育児時間、生理休暇。
④児童福祉法：胎産施設・保育所・母子生活支援施設。

●健やか親子21

2000(平成12)年度開始。母子の健康水準向上のための国民運動計画。2015(平成27)年度より、健やか親子21(第2次)開始。

●異常死産(死)

妊娠22週以後の死産と生後1週未満の早期新生児死を合わせたもので、わが国の围産期死亡率は、諸外国のなかでも最も低率である。

●妊娠死(死)

妊娠中または分娩後42日未満に妊娠に関連して死亡したものであり、その国の母子保健対策の真否を示す指標となる。

●更年期

卵巣機能の低下によるエストロゲン分泌の低下に伴い、下流体組織から多量の性腺刺激ホルモン(ゴナドトロピン)が分泌される。

●受精・妊娠

受精は卵巣大動脈で行われる。受精卵は子宮内腔に着床(図1)。

●妊娠の早期診断と分娩予定日

- (1) 妊娠の診断：①月経停止と高血圧の持続。
②尿の妊娠反応、③超音波検査、④児心音の聴取(超音波ドップラー法による)
(2) 分娩予定日：最終月経初日を0日とし、満期280日(40週0日)。

●分娩

分娩は胎盤・絨毛膜・羊膜の3層からなる。胎盤は胎膜、胎児カサリ性で特有のにおい、妊娠

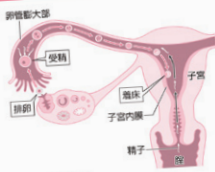


図1 受精・妊娠

7か月ころ最大量、600mlをこえる場合、羊水過多。

●胎盤

胎盤が完成するのは、妊娠16週ころで、妊娠末期には約500gとなる。

●胎膜

1本の胎膜と2本の胎膜からなる。

●妊娠による体重の変化

妊娠使用までの増加は標準体重で10kg前後である。1週間に500g以上の増加では、妊娠高血圧症候群に注意する。

●基礎体温測定(図2)

正常成熟期女性では高温期・低温期の二相性を示し、高温期は黄体ホルモン、プロゲステロンの作用によるものである。妊娠時には高温期が持続、低温期では高温期がないなど診断にも利用される。

●妊娠中の検査

- ①妊娠23週まで：4週に1回、②妊娠24〜35週：2週に1回、③36週以後：1週に1回(分娩予定日以後は必要に応じた回数)

●乳児の手当て

分娩後の授乳や乳汁分泌に影響を与えることがあるので、妊娠20週ころから始める。ただし、胎盤が剥離してきた場合には中止する。

●胎盤からの出血

- (1) 初期の出血：産前・異所性妊娠(子宮外妊娠)・起胎奇胎
(2) 後半期の出血：早産・前置胎盤・常位胎盤早期剥離・子宮破裂

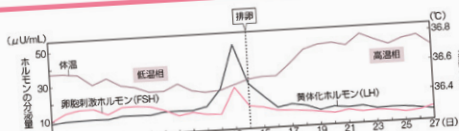


図2 基礎体温とLH, FSH



図3 胎位 図4 胎向

●常位胎盤早期剥離

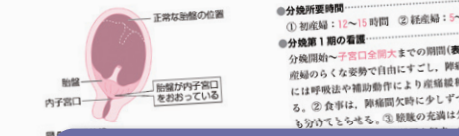
胎盤が児の娩出以前に子宮壁から剥離してしまう状態。母体には、貧血、DIC、ショックが生じる。

●胎盤胎向(図3、4)

母体と胎児の縦軸が一致するものを胎位、直交するものを胎向という。縦位は、頭位、骨盤位に分類される。胎児の向きのことを胎向という。縦位では、胎背が母体の左側を向いているものを第1胎向、右側を向いているものを第2胎向とよぶ。

●前置胎盤(図5)

胎盤が子宮下部に付着し、子宮口をおおっている状態。



●自然分娩の経過

胎膜開始→胎性分泌液→子宮口全開大→破水→陣痛→産前→児娩出

●分娩所要時間

- ①初産婦：15〜16時間 ②経産婦：5〜8時間

●分娩第1期の看護

①分娩開始→子宮口全開大までの期間(表1)。②産婦のらくな姿勢で自由に過ごし、陣痛発作時には呼吸法や補助動作により産痛緩和をはかる。③食事は、陣痛間欠時に少しずつ何回にも分けてとらせる。④膀胱の充満は分娩を妨

「試験によく出る重要事項」で
頻出ポイントを総点検できます

